

《眼科臨床エキスパート》 All About 開放隅角緑内障

吉村長久, 後藤 浩, 谷原秀信, 天野史郎 シリーズ編集 山本哲也, 谷原秀信 編

本書は、わが国の緑内障学の牽引者である山本哲也氏と谷原秀信氏の編集による開放隅角緑内障についての最新の知見をまとめた 400 ページ余の大著である。本書は医学書院による「眼科臨床エキスパート」シリーズの一巻であり、シリーズの方針は「臨床現場で要求される知識を、エキスパートの経験・哲学とエビデンスに基づく新スタンダードとして解説する」ことにある。この基本方針に加えて、「基礎と臨床の新知見をふんだんに盛り込み」、「患者の予後改善に役立つ知識を整理」することを目的として編集された。

内容は 5 章からなり、第 1 章の「総説」では山本哲也氏の豊かな経験に基づく緑内障診療のすすめかたの哲学と管理における着目ポイントが箇条書きに簡潔にまとめられている。第 2 章は「疫学と基礎」で、有病率やリスクファクター、遺伝要因や基礎的裏付けについて重要な情報が全体の約 40% の紙面を費やして詳細に記載されている。第 3 章は「開放隅角緑内障の診断」について眼圧測定、眼底所見、視野検査の留意点とともに発展著しい光干渉断層計、視野解析方法の最新の知見が紹介されている。第 4 章は「開放隅角緑内障に対する治療」であり治療原則から新しい点眼薬やチューブシャント手術に至るまで実践的に記載されている。特に日常診療の主体である薬物治療に約 50 ページが割かれている。第 5 章では「開放隅角緑内障の生活指導とロービジョンケア」が症例を挙げて示されており、全体として現在の開放隅角緑内障管理のスタンダードのすべてが網羅されている。

緑内障管理のガイドラインは大規模疫学調査や多施設共同臨床試験の結果に基づいているが、それぞれの研究により対象症例や診断基準、評価基準が異なっておりすべての症例に一律に適用されるものではない。しかし、実際には各研究結果の一部分だけが切り取られてエビデンスとして流布している。第 2 章ではこのような各種臨床試験の詳細について比較検討がなされており、その適用の限界が注意深く言及されている。

また、基礎的裏付けとして緑内障性視神経症や房水流出機構の最新の研究結果がわかりやすい図解で示してある。本章は本書の特色を形成している部分であり、多忙な臨床家にとってエビデンスの本質を理解し、最新のサイエンスをキャッチアップするのに最適である。

薬物治療は緑内障管理の基本であり近年多種多様の眼圧下降薬が市販されている。これに配合剤やジェネリックが登場し臨床現場に混乱を招いている。第 4 章では第 1 選択薬から第 4 選択薬の選び方、配合剤の位置付け、ジェネリックの問題が実践的に理路整然と解説されている。アドヒアランス改善の実際も記載されており、症例ごとに個別に対処せねばならぬ臨床家に明瞭な判断根拠となる情報を提供している。

気になった点としては、開放隅角緑内障、原発開放隅角緑内障、広義、狭義といった語句の使用が全体として統一されていない感があった。続発開放隅角緑内障についての記載は限定的であり、原発開放隅角緑内障と銘打ってもよいのではないかと思った。また汎用されている画像解析をどのように日常管理に生かしていくか、日常迷うことの多い近視眼における管理や low teen 眼圧症例の管理などについて明瞭な指針を示してほしい欲求を覚えたが、これは未だスタンダードとして記載できる段階にはない課題であろう。

本書は All About と命名されているように開放隅角緑内障の診療に必要な最新の知見のすべてが偏り無く、わかりやすくまとめられており、編集の目的が十分に達成されている。「緑内障治療の最高責任者」としての自負が伝わってくる作品であり、すべての眼科医のよりどころとなる著書である。

神戸大理事／副学長 根木 昭

B5 頁 420 2013 年

定価 17,850 円（本体 17,000 円＋税）

[ISBN978-4-260-01766-4] 医学書院刊